資料1

第1回 子どもの学びをトコトン支える県民の会

学校現場の状況

令和7年7月3日(木)

長野市立裾花中学校長　土屋次男
長野市立緑ケ丘小学校長　野口茂雄

各学校がめざすもの

自ら問いを立て、方法を考え、仲間と協働し、新たな価値を創り出す生徒

重点1　思いやりの心と規範意識を育む人づくり
重点2　主体性と創造性を育む授業づくり
重点3　地域と共にある学校づくり

長野市立裾花中学校

子どもも先生も「おもしろい」を実感する学校

～ポジティブな感情をもち、自分ごととしてとらえられる子ども・先生をめざして～

「未来は、きっと　おもしろい」
「子ども・保護者・地域・先生が幸せをめざす学校」

長野市立緑ケ丘小学校

教員の風土　内的要因

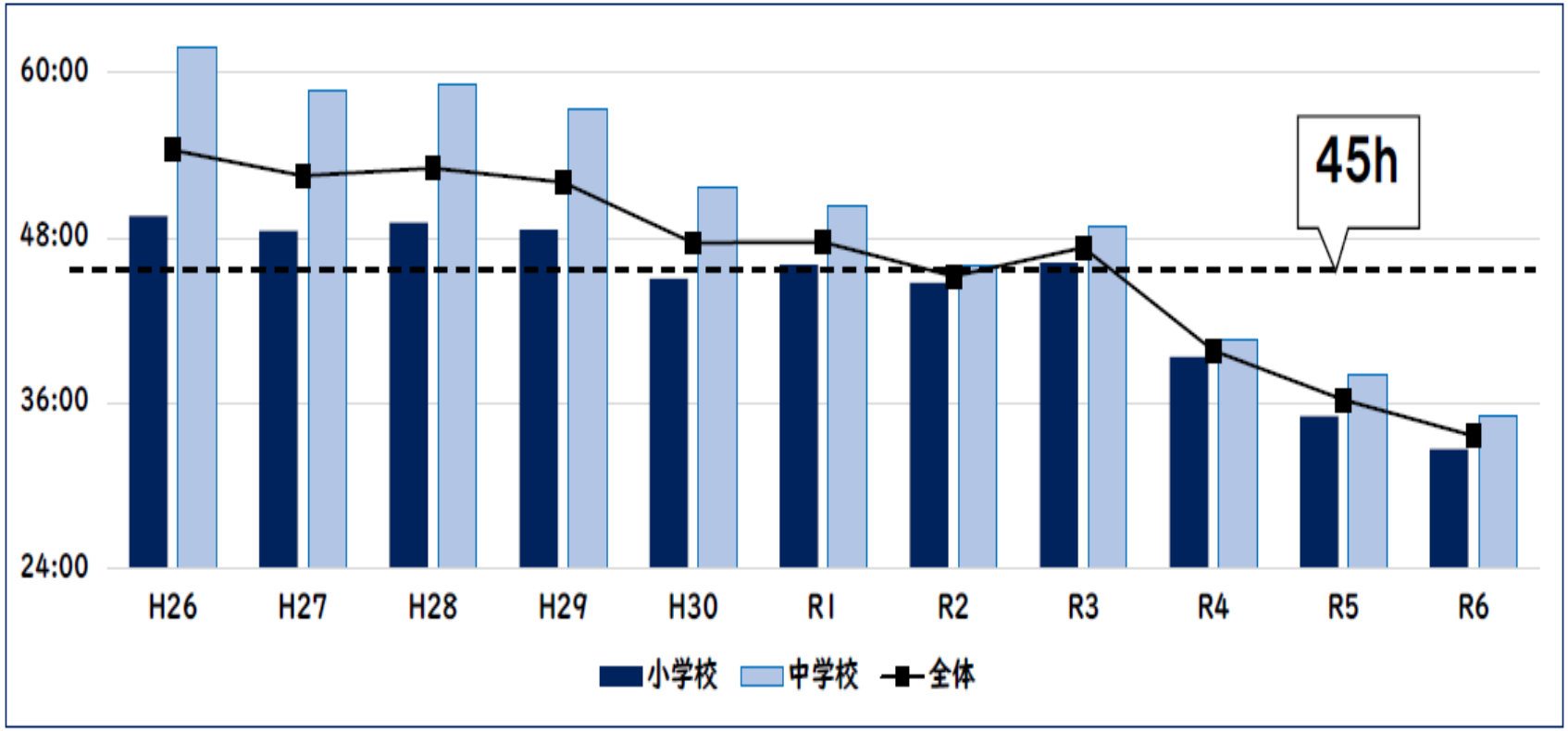
子どものためなら、ずく をおしまない
よいクラス・学年を作りたい
保護者の期待に応じたい
能率よりやりたいこと
話すことが好き
前例踏襲する雰囲気
外的評価を気にする

社会の風潮　外的要因

新たな教育　拡大するニーズと分業化
SNS、メディアリテラシー
学校の人間関係のトラブル　学校に起因
学校への期待・矛先
宿題の量的期待
学校へ過度な期待
福祉的視点の肥大化

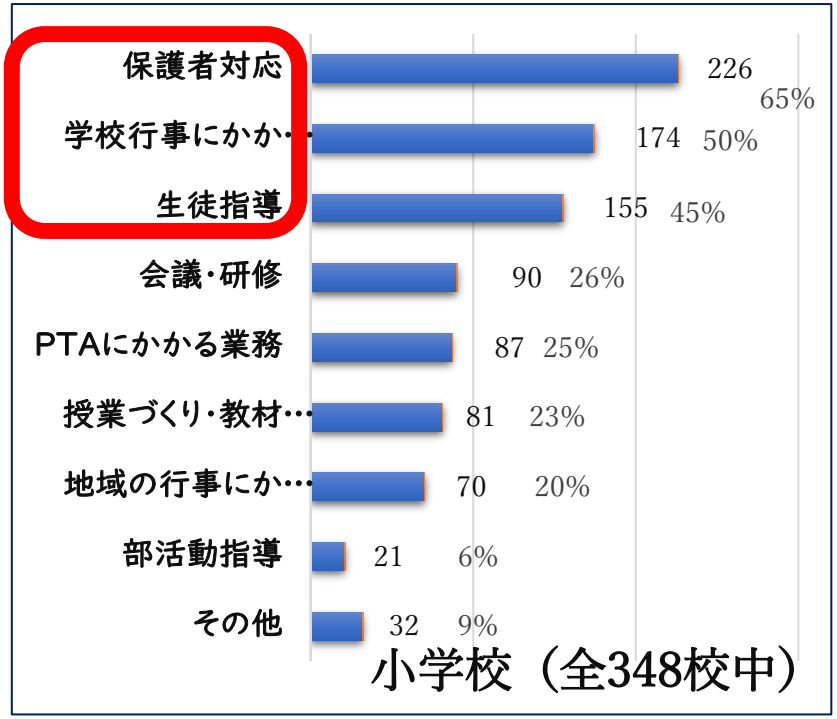
時間外勤務の推移

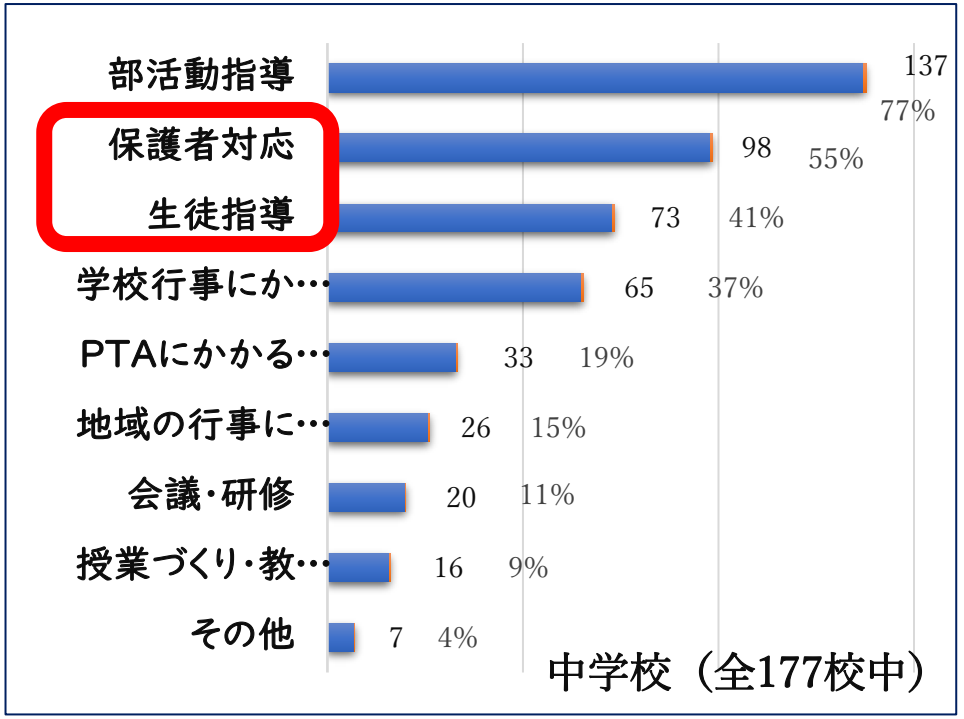
義務教育課調査　12月平均時間外勤務・持帰仕事時間の推移



学校の業務の中で負担に感じていること

義務教育課 令和5年調査　　上位3つまで

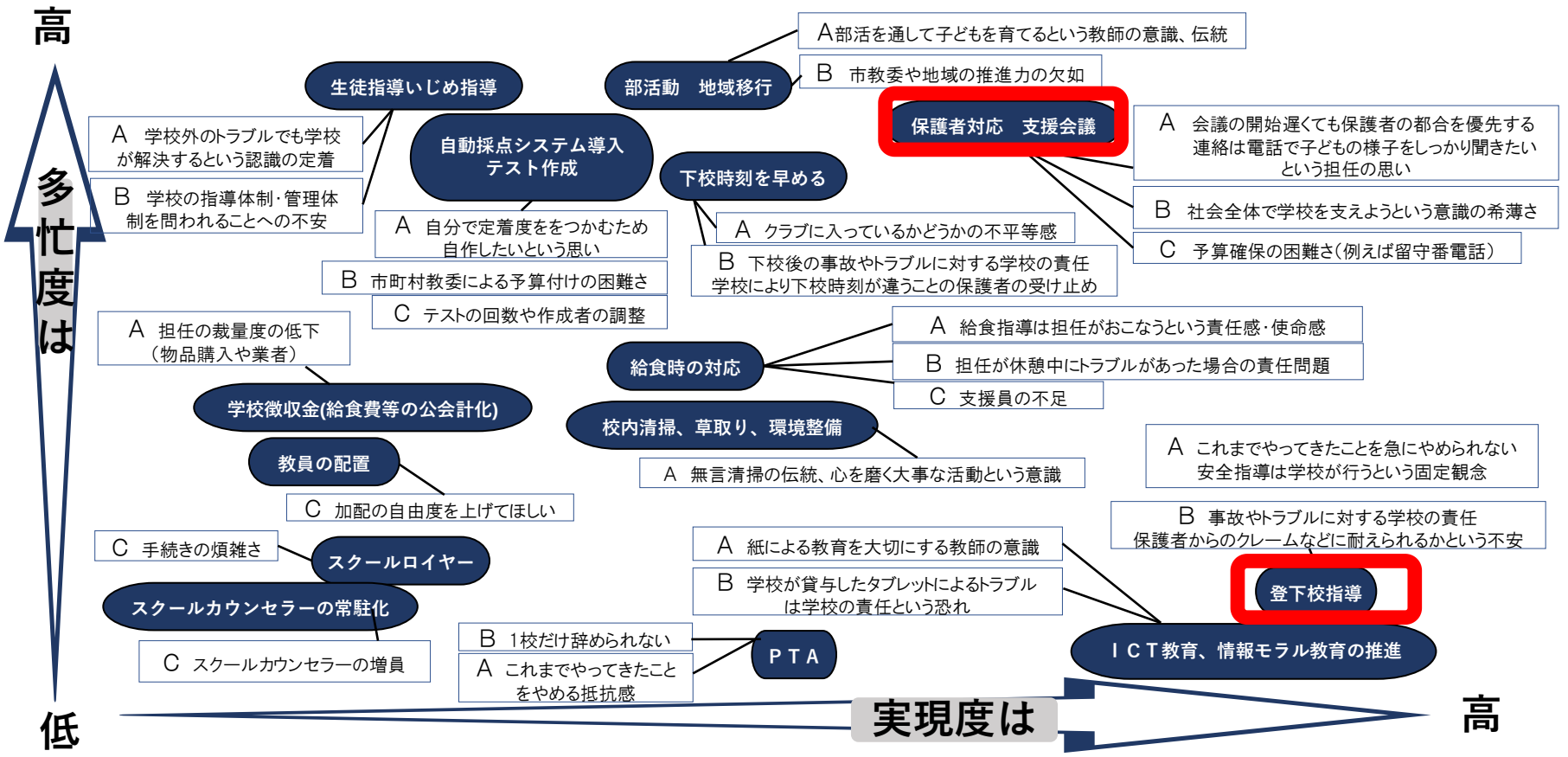




働き方改革に係るワーキング会議 業務の分析

改革を阻む要因

A（内的要因）	B（外的要因）	C（物理的要因）
学校の役割とする風土	責任を問われるかもしれないという恐れ	手続きの煩雑さ
子どもたちのためという教師の使命感	1校だけで改革を進める不安	
○これまで続けてきたことを急にやめることは保護者や地域の理解を得られないと学校は考える ○子どものために教師がやるのが当たり前とする教師の思い	○トラブルが生じたとき、学校が責められるという不安 ○大きな動きがないと、単独ではやめられない	○申請・更新などの手続きのわずらわしさ



多様な業務の対応に追いつかない小学校の現状

- 使命感・子どもを託すことへの抵抗感
- よい先生≒何でもできる先生　批判に敏感
- できない　と言えない気質　過小評価を厭う
- 多義に及ぶ個別支援　柔軟さに限界
- 休めない重圧　申し訳ない思いや迷惑感
- 信頼が損なわれた時の焦燥感や不安感

中学校改革を阻む要因
「個別対応が必要な生徒への対応事例」

■授業中の教室からの抜け出しと徘徊対応

■学力保証

■不登校・いじめ対策

■生徒の事故防止と事故対応

■部活動指導への対応

■地域や関係機関との連携

増加する多様な業務
学びの本質を大事にするために

中教審「学校・教師が担う業務に係る3分類」

個人と社会のウェルビーイングの実現

基本的には学校以外が担うべき業務	学校の業務だが、必ずしも教師が担う必要のない業務	教師の業務だが、負担軽減が可能な業務
①登下校に関する対応 ②放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応 ③学校徴収金の徴収・管理 ④地域ボランティアとの連絡調整	⑤調査・統計への回答等 ⑥児童生徒の休み時間における対応 ⑦校内清掃 ⑧部活動	⑨給食時の対応 ⑩授業準備 ⑪学習評価や成績処理 ⑫学校行事の準備・運営 ⑬進路指導 ⑭支援が必要な児童生徒・家庭への対応

＋保護者対応についても意見交換

×やめてよい、△どちらとも言えない、○学校がやるべきだ

一校からの発信力は強くない

■学校は追い風や後押しが欲しい

■一校の優れた成果は普及しない

■業務内容の検討を学校も含め多くの方でご検討いただくことがありがたい